

本日文教授会大衆団交に総結集し庄介
的に授業再開拒否宣言を狡ち取る中
から 6月移転最終決定粉碎の地歩を
构筑せよ！

ら、20文教戦線は大衆文化に燃えさせられて、その戦斗的論文、演説、教育大綱等を争奪し、政治的教育斗争を反対する立場に立つて、この間の斗争を争い抜けてきた。我がフロント（全教フロント教育大支部）より、本團交に向けたの方針を認容していただきたい。現下の情勢は即ちなる所為を有し、教育大での状況は如何なるものであり、その中の文教戦線團交を如何なる意図性をもつて争つていかねばならないのかを明らかにしておきたい。

教育研究基盤 4、2-1 新文部次官通達、4
、30 中教審別离答申とイアオロヨー的政策
の統一的規範としてあつた中教審答申を受け
た形で、政府自民党は大學立法を以て自民で制
定しようとしている。この大學立法の背景は
カ一に現行市民法の適用、「自主解決」派の
「努力」にもみかからず「正常化」「秩序維
持」など不十分であり、カニに七〇年治安内乱
を「解決しする必要性」、カミに「反暴力」スキ
ヤノベーンにより「日足的同意」を得てし野
党をモ巻き込んだということであり、その内
容は、文部省最終案によればカ一に学長への
权限集中であり、カニに「治安対策」的視点
から七〇年に向けての學生戦線への廃滅的攻
撃である。

かかる文部省監察に對して自民党は一方強固
な形での榮(文相が系校決定、处分取を行な
う)を出し、野党を同一目標に引き込み制
止法化しようとしている。このひとつは中教審
官申、大學立法规制化を通じて、管理、研究
、教育の分離をはかり、一方において、68
+69年毎回教育学園斗争の担い手たる学生
の弾圧、斗争花園の懲戒を通じて、クレヨンの
教育の基面的構成、一大學の格差化、目的
別世綱成「新大學管理わ想」を策している
。

かかる政府、ブルショアジーの意向に対し
て、一定に停滞した毎回教育学園斗争は、5
、23安田記念前の大連統決着集会を契機に
し、各大學への実質化、一口ソクアウト此一
を紛糾しつつ、大學立法の包括性、斗争の制
度化に歩みあるが故に、計中大反政府斗争と
して斗技く準備をもつつある。

《文教授法団》を大象的
決起をもつて対決し、授業
再開阻止へむけて進撃せり。」

《講座刷解体》、教授法解体の
スローガンの下、授業再開拒
否宣言をかちとれ！

ロックアウトレ授業再開・正規化・最終決
定ヒリラコースを宣傳教導解体刷はどり、
一方にありて中教審審査の先取りによるモデ
ル大字化への道を突き進んでる。これらが
大勢当局の攻勢に対し、戦闘は複数授業
再開阻止斗争をくみ、一定の打撃を大字書類
に与えていつた。

この抗争は斗争の成果として、向の戦闘の
一定の結果力の低下にしまえ、今、この教
委会因文にわざなる意識性を持つて斗争を
明瞭化しなければならぬ。

オーネマタ評議會における確認「授業再開
の方向性を確認」を批判の出発点として、
授業再開が①MP委再開を通じて、②月報
表記に概算請求へ向けての「正規化」の大
胆なベクトルへ推進派を攻撃しつつ、反対派
に対しては、彼らが授業再開を立場としてへ
社会的責任記・学園防衛主義の認めざるを得
ない奥を追求していかなければならぬ。

彼ら反対派の過去現在に亘るまでの教務会
的行動様式の破滅を宣告し、教育的に自己批
判を毎つていせなければならぬ。

そしてその上に授業再開拒否宣言を打ち出し
てやればならない。

民青右翼、革マル派の斗争圧殺を憤慨し、
第一期甲大斗争を、第一期大學革新斗争

して、勝利の（）前途（）によ

×2回、ア2大学にて想を打ち出して×2回反
抗派真率派の、断波に対する対応、立場固執
を批判していかなければならぬ。彼らの立

内講是を明らかにし、一体何處、何か商ひ
れているのかという事を聞く指摘すれば
ばらばら。

木22)、「2大勢」の想を打ち出してから反対派は、東洋画の、歴史に対する対応、立場自身を批判していくばかりではなかった。彼らの立場は、時权管理者の業能^ノを教説能^ノ、それを支える従制制^ノを控制^ノ、内面の自由^ノ「空間」の自由^ノ記に規定されていて、我々はこれらを解体を解体粉碎していく意志性をもつて國文を貢献しなければならぬ。

方の位置勢力の大結果をもつて、日露を与えると直ちに、う・2・3以降の事件に向けて強固な組織化をからむつてゆくが如はるる。かかる起業性をもつて、この因交を一大ステップとして、更なる進展を開始せし。我がフロントを備蓄の先頭に立つてヨリ坂

『早大斗争の新たなる展開』

内講演會を明らかにし、一体何が向か
れているのかという事を聞く指摘しあければ
ならない。

《大二期早大斗争を如何に位置づけるか》

東大、日大を産育とするの8年間の國政
争は、個別大學内における改良的課題をかか
げた斗にから起しつつ、國家の教育政策を大
體の場に貫徹させる媒介的統治様式を取在、
う効率化することを通じて、政府ブルジョア
ジーの新たな再編攻勢との対決を主要な課題
とする「政治的教育斗争」の領域へ突入する
にいたった。この反撲的性格をもつた教育學
国斗争が今耳を保むべく人民的政治斗争
争の場場の裏面に展開されることに
よって、選段階の階級斗争を無実として、し
たて上げられ、それが敵にきわめて歛烈な弾圧
庄殺支セがかけられている。現下の状況を察
度する中で壊が全部の教育學国斗争の断固た
る永遠的推進、横断的結合にとどまらず、ひ
く早大の斗争の総括にしまさられた均質的政
治意志の下、新には戦線を如何に充実してい
くのか比いう意に求められねばならぬ」の是
明らかである。學體自主管理を軸とするオニ
期早大斗争はまさにそしに更闇の中に把握
されねばならぬ」。早大斗争を學園内における

る個別改良の発展されたサイクルにおいては、中大の争議は、早大の管理と官僚的の解体と鮮明にかけ、反安保法斗争との結びを展望してオーバーとして位付けることはして早大斗争は一切現下の阶段状況の要請に応えることはできないであろう／＼

『革マル派の右翼的斗争』

早大斗争の裏面に一貫して極端として立ちはたかっているのが一文をその自称「革マル派の拠点とする革マル派諸君に他はない。彼らは個別斗争と、いうところの「教育政策斗争」ヒの連携を一切明らかにしきず、この競争争を、とりヒリ主義的に改良主義的に実行することもつて早大斗争のオニ期的展開に至ったくもつて、諦めしつづけてきた。のみならずかの悪名高き学聯「文連規約案」の実壁は大學当局が眞理。③予算、人事等々の一切の「協議取次方式」に示される「民青以下」は左翼性をその「革派性」として、何ヒ「民法」の条文解釈をもつて、「改良ヒ革争」の区別を語るという信じがたい落線にさつて、早大斗争を「主流派」として想ひんとしているのである。

『5.19一二メドウ庄大の意味するものとは何か』

たが、斗ラ学友の群勃の前に、スコスアと引キ下がらざるを得なかつた。

そして、日共ニ尾音、右翼ウユ着によつて、無期限バリスト確立は成程ながらほしとほくなつてい革マル派、民青を院茎に就フとはしる。フロントの癡子する文斗匪はオニ期早大斗争の担い手としての位ヲ不効クとのとしたのである。革マル派とぞう犯罪性は、大衆的にバクロされ、革マル派の自己批判を求める大衆的フン噏を根ねとして革マル派は初吳早大一文から恩茎に放逐された。

教育學同斗争の者たはる地平を切り開くために、我々は、早大一之助の新たな拠点を断固防衛せねばならぬ。官憲ヲ乱入を彈劾し、我々はかづかず、反戦主義に免チヨウされる範内容、無志革マル體悪革純アヘルト主義そのリニシ、我々は屋早大の革師的凶友と連帯し、オニ期早大斗争の勝利を共に斗りヒテうでは下りか、代上席入陣勢、

一文無期限アリスト貧徹、
革マル派の斗争庄殺彈劾、

つて推進されてきた。とりわけ拠点一文にあつては、執行部は革マルク派の基盤にさき手を棄てその趣向を、今月以降、クラス半数近くが自由主義に入り、それらを踏まえて、一文無期限バリストから空席ストへの展望をさり聞くものとして、昨日の一文学系大法が存在したのである。

一文学系大法において、革マルク派はヤマン的「統一三原則」をもつて討論提出をするが、吉せんとして